

Ⅱ 豊かで多様な生き方を支えるまちづくり（Bグループ）

| 現状・課題   | 理想像   | 対象事業                  | 意見   |
|---|---|-----------------------|--|
| <p>事業30</p> <p>○出産・子育て等により、仕事を諦める人がどのくらいいるのか。</p> <p>○待機児童の推移はどうなっているか。</p>                       | <p>○待機児童がなくなること。</p> <p>○延長保育や病児病後児保育、さらには障害児保育などの特別保育が、現在よりさらに利用しやすくなること。</p> <p>○男性において、育児休業取得を含めた、育児参加が拡充していくこと。</p> | <p>事業30 特別保育の実施</p>   | <p>○鳥栖市の待機児童数は全国的にみてどの程度なのか？</p> <p>○病後・病後児保育を充実してほしい。→登録制の場合、利用制約を緩和して、いわゆる「飛び込み」（未登録かつ無予約）でも利用できるようなるとよい。</p> <p>○制度上融通の利きやすい無認可保育園も増え、急用のとき預けやすいため利用者数も多い。</p> <p>○かなり遅い時間に及びような延長保育が、子どもに与える影響について慎重に考えていく必要がある。⇒長時間労働を強いられる雇用環境について、社会全体の問題として考えていく必要がある。</p> |
| <p>事業36</p> <p>○びよびよ教室で、子どもがぐずり泣いたりするため離乳食実習を行わなくなった。</p> <p>○今は市販のベビーフードの使用が多く、手料理をしない人が増えた。</p> | <p>○出産前からの教室を開催する。</p> <p>○若い世代の親に手料理の良さを知ってもらう</p> <p>○小さい子どもをもつ親は外出しにくいいため、高齢者グループとタイアップして子どもの面倒をみてもらうなど地域で活動する。</p>  | <p>事業36 ママパパ教室の開催</p> | <p>○父母ともに教室の参加人数を増やす。→年1回の参加を強く勧奨する。</p> <p>○気軽に行けるよう開催場所を各地区センターにする。</p> <p>○呼びかけや案内など啓発の工夫が必要。また、週末や休日に開催するなど、参加しやすい工夫も必要。</p> <p>○昔は、親から学んでいたの教室に行く必要はなかった。</p> <p>○教室に参加することで親同士の友達づくり、情報交換の場ができる。</p>   |

| Ⅲ 女性と男性がともに進めるまちづくり（Bグループ）  |   |                                 |  |
|---|---|---------------------------------|--|
| 現状・課題   | 理想像   | 対象事業                            | 意見   |
| <p>事業38</p> <p>○教室には、ほぼ料理経験のある人が参加している。しかも、料理経験のある人が一人で作ってしまい、肝心の料理のできない男性が練習できないケースもあるとされる</p> <p>○経験のない男性にも興味をもってもらえるような教室を企画することが重要</p>  | <p>○単発的でなく、定期的に継続して開催する</p> <p>○楽しく料理のできる時間をつくる。</p> <p>○男性の家事能力をあげることで、生活自立を可能にする。</p> <p>○料理は女性がするものと思っている。料理だけが家事ではないという視点を加えて、男性の家事力（生活力）全般を上げていく必要がある。</p> | <p>事業38 男の料理教室の開催／家事参加意識の促進</p> | <p>○子どもの頃からの「躰」が大切（掃除、洗濯など）</p> <p>○教室の内容について検討することが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・型にはまった料理でなく、地域と一緒にあって、地区または屋外などで若い男性も気楽に参加できる教室を開催したらどうか。</li> <li>・料理と後片付けをセットにして男性にしてもらう</li> <li>・買い物の仕方、残り物の使い方、後片付け、そうじの仕方などを教える</li> </ul> <p>○参加者はほとんど高齢者。サークルをつかって自主活動している。</p>   |
| <p>事業62</p> <p>○市報とホームページで公募はしているが、女性からの応募がない。</p> <p>○市報等で公募されていても、遠慮してしまったり、自分には関係ないと考えてしまったりする人が多いように思われ、募集の仕方にも工夫の余地がある</p> <p>○登録者の目標数を45名にしているが、まだ到達していない（25.4.1 現在23名）</p> <p>○推薦でもよいのではないか。</p> | <p>○リストへの登録者数を増加させるとともに、それを有効に活用する。</p> <p>○活用することで、登録者に張り合いを持たせる。</p>  | <p>事業62 女性人材リストの充実</p>          | <p>○担当課（市民協働推進課）がアイデアをだし、リストの充実と活用に努めてほしい。</p> <p>○健康、子育て、語学など多様な分野において人材を求めているが、登録しても活用がない。</p> <p>○会議や委員会などでは制約があるので、希望する女性がいたとしても難しい。担当課では各課に登用のお願いはできるが、要綱を見直すまでには至っていない。</p> <p>審議会等の委員について、指定された団体等からの推薦を定めている場合（いわゆる「充て職」）については、当該団体に対して、なるべく女性を委員候補として推薦してもらうよう要請してはどうか。</p> <p>○小中学校等が地域との連携を図っているので、地域で活躍している人に学校で「先生」として話してもらう際に、女性人材リストを活用してはどうか（女性が講師として学校に出かけていくこと自体が、子どもたちに好影響を与えると思われる）。</p> |

Ⅲ 女性と男性がともに進めるまちづくり（Bグループ）

| 現状・課題  | 理想像  | 対象事業                      | 意見   |
|--|--|---------------------------|--|
| <p>事業62</p>  |  |                           | <p>○登録基準がないので、高いレベルを求められるようで、登録に躊躇する。自薦のみならず他薦による登録も可能にしてはどうか。<br/>○「女性人材リスト」のネーミングが固い。</p>  |
| <p>事業63</p> <p>○毎年、セミナーを3～4回、フォーラムを1回開催している</p> <p>○女性人材リスト登録者にセミナー開催の案内を通知している</p> <p>○セミナー等への参加者が毎回少ない</p> <p>○講演を聴くだけで終わっている</p> <p>○県主催のリーダー研修を毎年1回開催している（対象者：懇話会等の委員や男女共同参画推進に携わっている方、興味のある方）</p> | <p>○男性と女性の性差はあるが、お互い思いやる気持ちをもつ</p> <p>○「男女共同参画」に関する正しい知識と関心をもってもらう</p> | <p>事業63 男女共同参画セミナーの開催</p> | <p>○「男女共同参画」と聞くと、固苦しく身構えてしまうので、親しみのある呼びかけをし、身近なものにしていく必要がある</p> <p>○リーダー研修は、男女共同参画を率先して主導するリーダーのための研修会なので、単に講義を聴く座学タイプばかりでなく、実践的課題に即した研修を企画すべきでないか</p> <p>○広報の仕方を工夫する必要がある</p> <p>○男性職員を含めた「中小企業の育児休業と取り方、作り方」に興味がある</p> <p>○参加者の年齢層が高いので、もっと若い世代にも参加してもらうよう大学に呼びかけ連携をとるなどの工夫が必要。</p> <p>○男女の格差を意識したのは社会にでてから、学生の頃は全く感じない。</p> <p>○「男女共同参画」の言葉に一般市民は関心を持っていない。講座タイトルを含めて、興味を喚起するような企画を工夫する必要がある。</p> |